

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ① 発見と感動により、学ぶことの喜びや大切さを教え、教職員が一丸となって生涯学習を可能にする最低限の学力と意欲を育成する。
- ② 生徒一人ひとりが自己の価値に気付き、自尊心を高め、夢や希望の実現に向かって健康的で人間性豊かな人材を育成する。
- ③ ものづくり教育等を通して創造する力を高め、日常の問題を解決し、地域社会に貢献する創造的人材を育成する。

2 中期的目標

1 学ぶことの喜びを通して確かな学力の育成

(1) 特色ある総合学科の教育活動を通じて社会で必要とされる基礎的・基本的な学力の育成を図る。

ア 生徒一人ひとりの学習歴や学力に応じたきめ細かな教材や指導方法の工夫を行い、教員間で生徒の情報を共有して指導を行うなど、生徒が学校や社会で困らないために3方面（社会面・学習面・身体面）から支援を行う。

イ 「ものづくり」を通して、将来のキャリア像を現実化と自己肯定感を高めさせる。

ウ 急速なグローバル化により、様々な場面で語学力が要求される時代を生きるために、語学力を活用しコミュニケーション能力の育成を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度「この学校は、他の学校にない特色がある」(R02 67% R03 75% R04 89.7%)を令和7年度には80%以上にする。

(2) 教員のスキルアップにより魅力ある学校づくりをめざす。

ア 公開授業や研究授業などを取り入れた校内研修や、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に取り組み、授業力を向上させる。

イ 内外の研修機会を利用して個々の教員の価値観を広めるとともに、新たな教育実践に挑戦し質の高い学びを提供する。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度「授業はわかりやすく楽しい」(R02 71% R03 74% R04 84%)を令和7年度には80%以上にする。

2 基本的生活習慣を育成すると共に地域連携を活用したキャリア教育の推進

(1) 教育活動全般を通して、基本的生活習慣と公共マナー等の規範意識を育む取組みを推進する。

ア 社会生活を送る上で必要な「挨拶」「言葉遣い」「時間を守る」ことを身に付けさせる。

学校に登校できない生徒、学校に来ても授業に入れない生徒に対して、中学校や家庭等と連携することにより指導の充実を図る。

イ 授業以外にも生徒が学校へ来る理由を作り登校習慣を高める。また、中途退学・不登校を未然に防止するため、関係機関との連携やSC、SSW等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた教育活動を推進する

※中途退学する生徒(R02 4名 R03 6名 R04 9名)を令和7年度までに8名以下にする。

(2) キャリア教育の推進

ア 探求活動を通じてコミュニケーション力を向上させると共に、ハローワークや地域企業等と連携して、望ましい職業観・勤労観を養い、自己理解を深め、主体的に進路選択をできることをめざす。進路選択支援と就労への準備を進め就職内定率100%維持をめざす。

イ 生徒への進路保障を充実させるために、地域企業との連携や信頼関係づくりに努めるとともに、生徒にライフプランニングを思考させ、職業意識や社会的スキルを高める。

ウ 創造的人格を形成するため、アイデアを形にする方法を習得させ自信を高めチャレンジ精神を養う。

※生徒向け学校教育自己診断において、「将来の進路や生き方について考える機会がある」と答える生徒(R02 79% R03 84% R04 90%)を令和7年度までに90%以上にする。

(3) 地域連携の推進

ア 地域の学校への出前授業、イベントやボランティア活動に積極的に参加させ、コミュニケーションスキルやボランティア精神を養うと共に、地域に根ざした教育活動を展開する。

※地域イベントや出前授業への生徒の参加を、(R02 0回 R03 0回 R04 4回)令和7年度には年間5回にする。

イ 地域の各種団体との交流を進め広報と地域の情報交換を推進する。

3 安全で安心な学校づくりの推進

(1) 生徒支援体制

ア すべての生徒に対して適切な指導と必要な支援を行い、SC・SSWを活用し自立と社会参加に向けて一貫した教育支援を継続して行う。

イ 教育相談体制を充実させ、課題を抱える生徒の早期発見・支援を行う。

ウ あらゆる教育活動において人権教育を進め、相互が敬愛し、互いの信頼の上に立って人権が尊重される心の通う教育を実現する。

※生徒向け学校教育自己診断において、「学校に行くのが楽しい」と答える生徒(R02 59% R03 55% R04 52%)を令和7年度までに60%に引き上げる。

※生徒向け学校教育自己診断において、「人権について学ぶ機会がある」と答える生徒(R02 81% R03 81% R04 90%)を令和7年度までに85%に引き上げる。

(2) 安心で安全な学校づくり

ア 生徒が安心して授業や実習を受けることができるように、授業を受ける(社会的・設備的)環境を整備する。

イ 災害時における連絡体制の確立と防犯防災教育の充実

※生徒向け学校教育自己診断において、学校安全の項目における肯定率(R02 76% R03 84% R04 84%)を令和7年度までに90%に引き上げる。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

ア ICT教育を充実し職務の効率化を図る。

イ 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ教職員の健康管理体制を充実する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒 R4年度の肯定的回答が高すぎたため、R5年度は全体的に減少している。(比較対象としてR3年度のデータも記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4年度より10ポイント以上減少した質問 「成績などの内容についてプライバシーが守られている」 R5 (81.0%) R4 (96.7%) R3 (85.2%) R5とR4の差 -15.7ポイント 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」 R5 (79.1%) R4 (93.8%) R3 (81.4%) R5とR4の差 -14.7ポイント 「学校は、進路についての情報を知らせてくれる。」 R5 (81.4%) R4 (93.8%) R3 (81.4%) R5とR4の差 -12.4ポイント 「教え方に工夫をしている先生が多い」 R5 (78.6%) R4 (90.6%) R3 (85.2%) R5とR4の差 -12.1ポイント R3年度との比較では差は大きくない。全体的に高評価である。しかし、「教え方に工夫」の評価を真摯に受け止め再検討したい。 ・R3年度と比較して大きく増加した質問 「学校に行くのが楽しい」 R5 (71.4%) R4 (81.0%) R3 (54.5%) R5とR3の差 16.9ポイント 「自分の学級は楽しい」 R5 (80.0%) R4 (80.0%) R3 (63.6%) R5とR3の差 16.4ポイント 「修学旅行は楽しく行えるよう工夫されている」 R5 (80.5%) R4 (84.2%) R3 (66%) R5とR3の差 14.5ポイント R3に比較してR5 R4ともに高い割合で評価されていると考える ・R4年度大きく下降していた質問 「校長先生の話は興味深くわかりやすい」 R5 (69.0%) R4 (59.4%) R3 (68.5%) R5とR3の差 0.5ポイント R3年度とほぼ同じに戻した。もう少し内容を精査したい。 <p>1 学校満足度 [本年度 増\nearrow 減\searrow 昨年度 (R3年度)] 「学校に行くのが楽しい」 71.4% \searrow 81.0% \nearrow (54.5%) 「自分の学級は楽しい」 80.0% \Rightarrow 80.0% \nearrow (63.6%) 【分析】学校に来ることを楽しい何かの取り組みが必要。 (studyroom等早めに登校できる場所等の環境整備を検討)</p> <p>2 学習指導 「授業がわかりやすく楽しい」 76.7% \searrow 84.4% \nearrow (73.6%) 「教え方に工夫をしている先生が多い」 78.6% \searrow 90.6% \nearrow (85.2%) 「学習の評価については納得できる。」 90.7% \nearrow 90.6% \nearrow (88.9%) 【分析】前年度より減少。教員の授業力向上の成果が思ったほど出ていない</p> <p>3 生徒指導 「学校生活についての先生の指導は納得できる」 76.7% \searrow 81.3% \rightarrow (81.4%) 「学校では生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」 81.4% \searrow 90.7% \nearrow (81.5%) 【分析】前年度と同程度。教員と生徒の信頼関係が構築されている。</p> <p>4. 人権教育、生徒相談体制 「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応している」 81.4% \searrow 90.6% \nearrow (75.5%) 「担任の先生以外にも保健室や相談室で気軽に相談することができる」 83.7% \searrow 87.5% \nearrow (75.5%) 【分析】担任・相談室・保健室・D×Pなどマルチに相談できる体制や生徒の信頼関係が構築されている。</p> <p>5 キャリア教育 「将来の進路や生き方について考える機会がある」 83.7% \searrow 90.3% \nearrow (83.6%) 「学校は進路についての情報を知らしてくれる」 81.4% \searrow 83.7% \rightarrow (85.4%) 【分析】進路 HR を中心に生徒一人ひとりに寄り添う指導が生徒の進路選択に効果が出た。</p> <p>保護者 全般的に高評価であり低い評価で心配な項目はない。回答期間を長く設定し、懇談時での回答を依頼したため昨年度に比べて約5倍程度回答率は上がっている。それでも全体1/3のためもっと増やす取り組みが必要。 【分析】更なる回収率の向上を検討</p>	<p>第1回 (6/28)</p> <p>○R5年度学校経営計画について ・キャリア教育の推進として生徒にライフプランニングを思考させる取り組みをもっと進めてほしい。 ・スクールカウンセラーについて、定時制は支援を要する生徒が多く月1回の配当では少ないので派遣機会を増やすようにすべきでは。 ・居場所事業の実情と効果についての質問 ・修学旅行の実施についての質問 ・学校教育自己診断の結果と実態の乖離があるのではないかと。もっと実態を正しく表す調査方法を検討してもらいたい。 ○スクール・ポリシー案について ・アイデアコンテストなどの参加を検討しポリシーに資格取得や各種コンテスト参加の項目を追加してはどうか</p> <p>第2回 (10/27)</p> <p>○R5年度学校経営計画の進捗状況について ・中学校を卒業後、通信制に進学した支援を要する生徒が、課題を提出できずに困っていると聞く、定時制では支援を要する生徒に対する指導の充実についてどうなっているかについて質問 ・観点別評価の推進や定期考査の回数を減らすことで生徒の学習意欲向上や適正評価につなげてほしい。 ・学校教育自己診断において中学校に行くのが楽しいと応える生徒の割合が低いことへの改善して欲しい。 ・工業高校の再編の話題を知り、佐野工科の今後の心配。佐野工科の必要性を知ってもらうために地域連携を進め学校の魅力を発信する工夫をより一層検討されたい。</p> <p>第3回 (2/26)</p> <p>○学校教育自己診断およびR5年度学校経営計画の学校評価、R6年度学校経営計画案について ・「教員の意見が学校経営に反映されている」という項目の肯定率が低い、准校長がリーダーシップを発揮すると先生方の意見が反映されにくいのかと思う。円滑に業務を遂行できるようにして欲しい。 ・学校HPの閲覧の項目がとても低い、ということか。 ⇒現在、ペーパーレスの観点からも有料メールサービスで直接、生徒保護者に情報を送っているため、生徒がHPを見る必要性がほとんどない状態です。 ・学校教育自己診断は質問項目が多すぎるのではないかと、少し減らした方がいいのではないかと。 ・居場所事業を実施しているNPOが撤退するようだが、代替団体などを探してほしい。 ・居場所事業で提供されていた食事などがなくなるのでは、給食など考える必要があるのでは。 ・今年度と来年度の学校経営計画について把握した。引き続き計画に沿って円滑な学校経営を期待する。</p>

府立佐野工科高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 学ぶことの喜びを通して確かな学力の育成	(1) 基礎的・基本的な学力育成 ア 個別の指導方法の工夫、教員間で生徒の情報を共有	(1) ア「わかる授業」授業を展開し学習意欲を高め確かな学力を育成する。 ・授業ごとにまとめのレポートや小テストを実施し授業参加の実感と実績を残す。 ・グループワークや調べ学習の活用を促進する。 ・ICT 機器を最大限活用しわかる授業を推進する。 ・実習等の活動できる環境を整備し教育効果を高める。 ・生徒の情報交換の場を設定する。	(1) ア・学校教育自己診断（生徒）結果における授業・評価に関する項目の肯定率 85%[82%] ・学校教育自己診断（教員）における ICT を活用した授業に関する肯定率 100%[100%]	(1) ア・学校教育自己診断（生徒）結果における授業・評価に関する項目の肯定率 80.5%にとどまった。生徒に授業により学力の向上を実感させる取り組みを続けたい。△ ・学校教育自己診断（教員）における ICT を活用した授業に関する肯定率は 100%であった。今後も多様な生徒に対して、様々な機器の活用を進めていきたい。○
	イ ものづくりを通して、キャリア像を現実化と自己肯定感の向上。	イものづくりコンテスト等への出品や各種資格・検定を見通して生徒への自己肯定感と将来の意識づけを行う。	イ・課題研究発表会 1 回 ・技術コンクールや各種競技への参加 1 点 [2 点]	イ・課題研究発表会（1月31日実施） 自らの学習成果を他者を意識して発表する機会として実施し自己肯定感の向上を目的として活性化していく。○ ・技術コンクールや各種競技へ 3 点参加した。◎ 大阪府学生科学賞 2 点 奨励賞 大阪府定通生徒秋季発表大会 美術工芸部門 1 点 教育研究会賞
	ウ コミュニケーション力の向上	ウ校内外で、他言語を活用したコミュニケーション活動を体験し能力の育成を図る。	ウ・英語検定受験者 2 名以上[0 名] ・学外での実践的な外国語を活用した活動 1 回 [0]	ウ・英語検定 3 級 1 名受験・合格 費用のかかる検定等の挑戦は難しい。△
	(2) 教員のスキルアップにより魅力ある学校づくりをめざす。 ア 教員のスキルアップ	(2) ア 公開授業週間を活性化し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業力、指導力の向上に努める。	(2) ア・公開授業週間 2 回 [2 回]	(2) ア・授業見学週間 10 月 11 月に公開授業週間として職員全員が公開授業を実施した。また、今までできなかった授業参観週間を学年ごとに実施した。残念ながら参加者してもらえない保護者が少なかった。もっと学校に興味を持ってもらえるような取り組みが必要。○
イ 質の高い学びの提供	イ授業や HR 等で 1 人 1 台端末を有効活用する機会を増やす。 StudyRoom 利用を推進し、学習する習慣を養う。 校内外の職員研修を実施する	イ・StudyRoom 利用者 100 名以上[98 名] ・職員研修 4 回 [4 回]	イ・StudyRoom の開室日を今年度、考査 1 週間前から開室し長期休業日は週 2 回開設し、延べ 156 名来室した。◎ ・外部講師による職員研修として 4 回実施した。○ 外部講師による救急救命講習 SSW によるヤングケアラー研修 外部講師による日本語指導の必要な生徒指導研修 SC による障がい理解研修	

府立佐野工科高等学校 定時制の課程

2 基本的な生活習慣を育成すると共に地域連携を活用したキャリア教育の推進	(1) 基本的な生活習慣の向上 ア 基本的な生活習慣の充実	(1) ア・学校に登校する授業に出る習慣を作る。 ・遅刻・欠席した者へ補習指導。 ・登下校時の校門指導により生徒とのコミュニケーション機会を増やし、生活規律や学習規律などを通じて基本的習慣を身に付けさせる。	(1) ア・学校教育自己診断（生徒）結果における登校・クラスの楽しい項目の肯定率70% [66%] ・校門指導における遅刻回数 1000 件以下 [827 件] ・学校教育自己診断（保護者）結果における教育活動の肯定率 75% [100%]	(1) ア学校教育自己診断（生徒）結果における登校・クラスの楽しい項目の肯定率 75.5%であった。更なる登校意欲を高める取り組みを検討したい。○ ・遅刻回数のべ802人○ ・早退者のべ77人 ・学校教育自己診断（保護者）結果における教育活動についての関連項目の肯定率 75%であった。○
	イ 中途退学・不登校防止、生徒の状況に応じた教育活動を推進する	イ・不登校生徒への家庭連絡、家庭訪問を強化する。 ・SCやSSWの活用を促進し退学生徒を減少する。	イ・退学する生徒8名以下[9名]	イ・退学者 4名◎
	(2) キャリア教育の推進 ア 進路支援体制	(2) ア・探求やHRを通じて就労意欲を高める。 ・D×Pや地域企業と連携し、就業率向上を図る。	(2) ア・就職内定率の向上 100% [100%] ・就業率の向上 60% [52.4%]	(2) ア・進路支援体制として進路実績 卒業予定者4年生3名 3年生9名 就職希望4年生1名 3年生8名内定率 100%◎ 専門学校進学1名合格 未定2名 (12月末時点) 就業率 56.9% (1月調査) 就職内定者は年内で退職傾向にあり10月から1月にかけて減少した。△ イ・インターンシップ(仕事体験ツアー) 2名 外部へ出たがらない傾向がある中で希望者を出せた。△ ・卒業生講話3月実施予定 ・学校教育自己診断（生徒）における進路指導項目の肯定率は82.6%と目標よりは低くなったが、3月に卒業生講話を実施し若い学年の意識の向上に努めたい。○
	イ 職業意識の向上	イ・外部講師や卒業生講話を実施する。 ・地域企業と連携した職場体験・実習等を実施する。	イ・職場体験・実習等参加者数3名[0名] ・学校教育自己診断（生徒）における進路指導項目の肯定率90% [92%]	ウ・チャレンジ精神の育成として3点出品した◎ ・大阪府学生科学賞2点出品 奨励賞 ・大阪府定通生徒秋季発表大会 美術工芸部門1点教育研究会賞
ウ チャレンジ精神の育成	ウ・モノづくり教育を通してアイデアを具現化する方法を身に付けることにより、自信やチャレンジ精神を養う。	ウ・技術コンクールや各種競技への参加3点 [1点]		
(3) 地域連携の推進 ア 地域貢献活動・ボランティア活動	(3) ア・近隣小学校への出前授業を実施する。地域イベント等に積極的に参加協力する。 ・生徒会が主体となった地域清掃活動を実施する	(3) ア・出前授業等やイベント等への参加 4回 [4回] ・地域清掃活動4回[4回]	(3) ア・出前授業・イベント等に5回参加◎ 出前授業は受入校との調整のため実施できなかったが以下のイベント等に参加。 泉佐野市主催小学生対象プログラミング教室 1回実施予定 11/18 高校生のための科学の祭典(サイエンスフェスタ) 出展(8/20) 高校生のための科学の祭典(和歌山大会) 出展予定 (11/5) 神戸女学院大 SDGs 探究×研究サイエンスフォーラム 出品 (8/11) 地学クラブ研究発表1回 (11/19) ・地域清掃活動4回実施○	
イ 広報活動の充実	イ・中学校訪問の実施(多様な生徒の進学先としてのPR) ・地域の団体との連携を実施する。	イ・中学校訪問10校以上[9校] ・学校案内10件以上[9回] ・地域の団体連携 年5回実施[年5回]	イ・地域の中学校への広報活動を実施 ・中学校訪問 14校 ○ ・中学生学校説明 9組 ○ ・泉佐野青年会議所主催のイベントボランティア等の連携(希望者を出せなかった。)△	

府立佐野工科高等学校 定時制の課程

3 安全で安心な学校づくりの推進	<p>(1) 生徒支援体制</p> <p>ア 個別の生徒支援</p> <p>イ 教育相談体制</p> <p>ウ 人権教育</p> <p>(2)安全で安心な学校づくり</p> <p>ア 授業環境の整備</p> <p>イ 防犯防災教育</p>	<p>(1)</p> <p>ア・SC・SSW や外部機関と連携を図りながら、担当分掌が中心的な役割を果たし、生徒支援会議を定期的に開催し、ヤングケアラーなど支援を必要とする生徒の情報共有や支援方法を検討する。</p> <p>イ・外部機関と連携した学校居場所づくりの推進と個々の生徒の情報を共有する。</p> <p>・生徒が気軽に相談できる教育相談室をめざして環境整備を行う。</p> <p>ウ・HR や行事等で指導を行い、互いに尊重し合う態度を育成し、いじめ・暴力を許さない環境づくりを行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・すべての生徒にとって「わかる、できる」授業をめざし、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。</p> <p>・実習設備施設共に安全で効果的な環境を整備する。</p> <p>・HR 教室及び校内の清掃活動を行い、環境の美化を徹底する。</p> <p>イ・生徒・教員における災害時の連絡体制を整備する。</p> <p>・HR 等で防犯・防災教育を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒支援会議及びケース会議を毎月実施する</p> <p>イ・学校教育自己診断（教員）における教育相談項目の肯定率 90%[88%]</p> <p>・学校教育自己診断（生徒）における教育相談項目の肯定率 90%[88%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断（生徒）における人権教育項目の肯定率 85%維持[92%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断（生徒）における授業改善の肯定率 90%維持 [91%]</p> <p>イ・メール等を活用した緊急連絡体制の継続</p> <p>・防犯防災教育・避難訓練の実施回数 2 回以上 [2 回]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒支援会議及びケース会議を毎月実施 ◎</p> <p>生徒支援会議 15 回</p> <p>ケース会議 62 回</p> <p>イ・学校教育自己診断（教員）における教育相談項目の肯定率 100% ◎</p> <p>・(生徒)における教育相談項目の肯定率 82%。△ 来室者が固定化傾向がある。</p> <p>・外部NPOによる居場所づくり展開し、生徒相談の別チャンネルとして実施した。来室者 1005 名</p> <p>ウ・学校教育自己診断（生徒）における人権教育項目の肯定率 83% ほぼ維持 ○</p> <p>(2) 授業環境の整備○</p> <p>ア・学校教育自己診断（生徒）における授業改善の肯定率 88%であったが授業環境の整備として、ICT機器を増やし、実習設備の整理を行い、環境美化を進め効果的に実習できるようにした。○</p> <p>イ・さくら連絡網を活用した安否確認訓練 1 回○</p> <p>・防災避難訓練 1 回</p> <p>防災HR 1 回 ○</p>
4 校務の効率化と働き方改革の推進	<p>(1) 校務の効率化</p> <p>ア ICT による校務の効率化</p> <p>イ 労働安全衛生管理体制の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・ICT やデジタル教材を活用するなど、校務の効率化を図る。</p> <p>イ・会議打ち合わせ等の効率化</p> <p>・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る。</p> <p>・会議資料・職員連絡のデジタル化を推進するための環境整備</p>	<p>(1)</p> <p>ア・ICT 活用における校務軽減の肯定率を 100%[100%]</p> <p>イ・年次休暇取得日数 13 日以上 [16.4 日]</p> <p>・学校閉庁日の拡大 15 日[13 日]</p> <p>・職員会議数削減 12 回 [24 回]</p> <p>・ペーパーレス職員会議の実現 25%以下 [-]</p> <p>・教員の 1 人 1 台端末 90% [31%]</p>	<p>ア</p> <p>・学校教育自己診断における、コンピュータ等の ICT 機器が、授業などで活用されている。(教員)[100%] ○</p> <p>イ・年次休暇取得日数 16.4 日○</p> <p>・職員の安全衛生に関する会議を毎月実施</p> <p>・学校閉庁日を 15 日間に拡大○</p> <p>・職員会議を半分に削減 (12 回) ◎</p> <p>・ペーパーレス職員会議の実現 0 回</p> <p>職員の端末の確保に問題があり、実施できず。△</p> <p>・クロムブックを活用した運営委委員会の実施 3 回/11 回中</p>